

子どもの活動 地域に発信

横浜、川崎市を中心に建築などを手がける「大川グループ」傘下の「ワオ・ジャパン」（横浜市鶴見区、大川恭延社長）が両市内で運営する民設学童保育13園で、地域の企業や町内会などと連携した「交流まつり」が好評だ。22日には川崎市幸区エリアで締めくくりになる13番目のまつりが行われる予定。大川社長は「地元と連携を深めながら、多くの人に学童を知ってもらいたい」と話している。（有吉 敏）

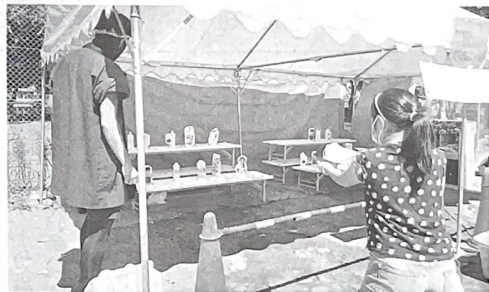
横浜・川崎の民設学童13園

同グループは2000年から認可保育園を運営しており、同社の学童保育「ワオキッズ」は「保育のパートナー」との位置付けで11年からスタート。当初は児童8人、スタッフ2人だったが、現在は13園で児童約900人、スタッフは約1200人上っている。



子どもたち手作りの「ひもくじ」に歓声が響いた「ワオまつり」全園で子どもとスタッフが協力してイベントを展開してきた。9月3日、横浜市鶴見区のワオキッズ上末吉園（ワオ・ジャパン提供）

各園で「交流まつり」22日にも



施設近くの公園に設けられたワオキッズ新子安園のまつりの水鉄砲コーナー＝9月10日、横浜市神奈川区（ワオ・ジャパン提供）

地域と交流する「ワオまつり」は先月から始まり、これまで12園で実施。「上末吉園」（横浜市鶴見区）では子どもたちが「ひもくじ」を手作りし、「岸根公園」（同市港北区）では竹のランタンを作るなど、各園で工夫を凝らした。22日は午前11時から午後4時まで「ワオキッズ新川崎園」（川崎市幸区）で行われる。「コトニアガーデン新川崎」の一角に位置しており、当日は同ガーデン主催の「秋のまちフェスタ」と合同開催となる。「学童は『親が仕事をすするため預ける場所』ではなく、子どもが主役として活動する場所」と大川社長。「健やかに成長していく場」とその活動をぜひ見てほしいと呼びかけている。問い合わせは、ワオキッズ本部（0120）801176＝平日のみ。